

## 【西上州二子山中央稜を登って】報告

町田

平成5年10月1日と平成6年11月19日、2年連続で大宮岳稜会の一員として二子山中央稜を登攀した。

登ったラインは昨年・今年共に本来の中央稜ライン。

自分の体感グレードは、1P(Ⅲ+) 2P(5.8) 3P(5.9 or V-) 4P(Ⅲ) 5P(Ⅳ) 6P(Ⅱ+) 7P(ただの道)。但し、A0やA1をしないでの体感。

大宮岳稜会のメンバーと行った2回は、完全フリーではたぶん無理と考えていたので、いくつかの難しいパートには、A0用にスリング、或いはテープアブミを残置した。

去年は、町田トップの3人。今年は私の climbing 仲間のN美っちも入れて、第1Ptが、町田トップの3人、第2PtがN美っちトップの2人。

2年連続で、二子山中央稜というマルチピッチ或いは準本チャンルートの登攀計画を実行したことにより、大宮岳稜会内で、過去に同ルート未経験のメンバーが5人、今では経験者として名を連ねることが出来たと思う。

私が、初めてマルチピッチをフォローで連れて行って貰ったのは、一ノ倉烏帽子南稜だったが、それ以後はどこへ行ってもオールフォーローの登攀はしなかった。なぜなら基本的に岩登りはシングルピッチであってもマルチでも、全てのラインを自分の実力でリード出来なければ「登った！」とは言えないと考えていたから。登攀の形式としてつるべで行けば、全てのピッチをリードすることはありえないのだが、どのパートが自分の順番に回って来ても、必ず「登れる！」自信が有った場合のみ「登った！」と言うことにしていた。因みにフリークライミングではリードで登り、オンサイトやフラッシング、或いはレッドポイントとなり、トップロープでのクライミングは、基本的に登ったと言わない。

本チャンは登山の一形態なので、トップでもフォローでも、そのラインをトレースすれば一般的には「登った！」と言ってもいい気もするが。

もし先の5人のメンバーのうち、例え1人でも次回はリードで登攀したいというモチベーションを持った方がいたら、2年連続で二子山中央稜登攀の計画を立てた私としてはとても嬉しい。誰か次回はオールトップで登って！

その時、私はたぶん弓状エリアのどこかのラインを登りながら、心の中で大きな声援を送っている>